



# あのとときの常呂・写真館

VOL 77

(1978年)

昭和53年11月10日

## 常青協合唱サークル「クレッシェンド」 全国大会出場・努力賞獲得

▶ 常青協（常呂町青年団体協議会）は、昭和25年11月に町内各地区の青年団体が集まり地域青年団として誕生しました。30年代には、各地区の演芸会や敬老会を地区の青年団が中心となって行ったり、常青協主催の芸能発表大会・町内青年体育祭などを行い、文化・スポーツ両分野で大きな力を発揮しました。この当時、文化祭には青年の弁論大会、単位団による演劇が恒例のプログラムになっていて、青年団の存在が大きかったことを示しています。その後、40年代に入ってから、過疎化による地区青年団の団員減少が進み、地域青年団として組織維持が難しくなり、46年12月に常青協規約を改正してサークル活動への移行を図り、翌47年4月から地域青年団からサークル制の青年団に生まれ変わります。

\*このころの状況を、「常青協25周年記念誌 若人」の歴代会長の対談で、当時の会長が「…今まで地域単位青年団だったのをサークル化にし、趣味のサークルにして活動の活発化を図ったのです。ソフトボール、バレーボール、歌声、柔道、生活などのサークルが作られました。一時団員数が減少したり、地域青年団が崩壊してきたりでしたが、サークル化により団員も増えました」と語っています。

▶こうした常青協の活動が全国大会出場につながり、昭和53年10月号と12月号の「広報ところ」は、全国大会出場と結果を次のように伝えています。

\*…9月14-15日の両日、滝川市で開かれた第6回北海道青年祭兼第27回全国青年大会予選会に常青協から合唱の部、舞踊の部にそれぞれ参加し、合唱は最優秀賞、舞踊は努力賞を獲得、合唱は全国大会への出場が決まりました。合唱の部に参加したのは、歌声サークル「クレッシェンド」。昭和48年に生まれたこのサークルは現在21名の会員がおり、毎週は曜日を例会日として練習に励んだ成果がここに実を結んだもの。

\*歌声サークル・クレッシェンドは、11月10日、東京で行われた全国青年大会に出場し、全国から28チームが参加した中で、努力賞（第5位の成績）を獲得しました。

\*昭和53年12月号の「広報ところ」は、この快挙をサークル代表のレポートを添え、紙面の半分以上を使って紹介しているので、最後のページに付けました。

▶今回は、北海道青年大会に向けての練習、全国大会出場記念発表会、文化祭出場の写真で合唱サークル・クレッシェンドの活動・活躍をお伝えします。

北海道青年祭に向けた練習風景：中央公民館



昭和53年11月の常呂町文化祭：中央公民館



11月に行われた全国青年大会出場記念発表会：中央公民館





この発表会では、演劇サークルも友情出演し、会場を盛り上げました



広 報 と こ ろ

# わが町の若人

## 全国に名を高めた



会館にて北海道選手団百五十五名の結団式。赤レンガ前で記念撮影。北海道選手団おそろいのユニフォームを受け取ったわがサークルのメンバー、ほとんどが規格外の体型の持ち主(特に女性軍)で、ブレザーの着こなしに四苦八苦は「東京に着いたのは」九日昼。そのまま国立競技場へ。

る皆の顔に、不安と緊張が高まり「さすが全国大会、どのチームもプロに見えて(聞こえて)くる」とメンバー動揺が隠せない。楽屋入りの後、ステージに立って、全員全力で歌い上げ、顔を真っ赤にして席に帰った後の昼食は、食べたい気がしない。午後五時、成績発表。最優秀賞一、優秀賞四、努力賞三チーム。わがチームが努力賞を受けた時の喜びは表現できないほど。

そうした努力があふれ出るようなコーラスを聞いて、何しろ感動したのは私だけでは無いと思えます。

【これからも】私たちは、常呂町が文化の都となるよう、できる限りの努力をするつもりであります。最後に、大会出場に当たり、理解

とご協力をいただいた皆様にご心よりお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

【ついでながら】この次の大会の地区予選が十二月にあります。現在サークル会員を募集しておりますので、音楽の好きな方だけでも気軽に来て下さい。

### 常呂剣連の新たな幕明け

#### 相次いで剣道大会

常呂剣道連盟(多田勇会長)は十一月三日・十二日と町民センターを会場に、町民剣道大会、三区(網走、北見、紋別)対抗剣道大会を相次いで実施しました。

町民剣道大会は、豆剣士など九十名が参加して行われ、「メインドゥー!!」とかけ声も勇ましく、アリーナには熱気がムンムンしていました。

現在同剣連には二百十五名の剣道愛好者がおり、毎週水曜日午後六時より町民センターで練習を行っています。

有段者も増え指導者も一段と充実してきたので、同剣連では初心者への加入を待ち望んでいます。

【いよいよ発表】本番の十日。私たちの出番は午後の五番目。二十ハチームの参加で、受付を終えた午前八時には、すでに十数チームが、ステージやロビー、前庭で練習をしており、私たちも午前中、引率の石渡指導主事の手配で、なんと昼間のスナックで練習。正午過ぎ、軽く食事をして会場の野口記念館へ向う。出番を待つ間、出演中のチームのハーモニーに聞き入

る皆の顔に、不安と緊張が高まり「さすが全国大会、どのチームもプロに見えて(聞こえて)くる」とメンバー動揺が隠せない。楽屋入りの後、ステージに立って、全員全力で歌い上げ、顔を真っ赤にして席に帰った後の昼食は、食べたい気がしない。午後五時、成績発表。最優秀賞一、優秀賞四、努力賞三チーム。わがチームが努力賞を受けた時の喜びは表現できないほど。

【私たちが】合唱に取り組んで二年、永年の夢であった全国大会に出場することができ、その間、多くの事を学ぶことができました。とりわけ、皆で力を合せて何かを造り上げること、人間として常に向上を願い、また、多くの人々と心を一つにすることは一番の喜びではないかと思えます。合唱では、指揮者を中心に、各パート内での心がそろわなければ声がそろいません。

また、パート間のチームワークが無ければ、バランスが取れません。一曲を完成する為に全員の心が一つにならなければなりません。全国大会に出場したチーム全ての、

この大会を主催した同剣連の多田会長は「管内的に一番大きなこ



豆剣士のたたかい

【出発したのは】十一月八日の朝。公民館前で結団式を終えての午前六時。全員体調を整えてか?列車の中では大きな口をあけて、今朝の夢の続きで何やらニヤケ顔。その日の午後三時に札幌北海道青年

表にレポートしていただきました。全国大会をふり返って

秋保 敏宏

以下、同サークルの秋保敏宏代表にレポートしていただきました。全国青年大会に出場し、全国から二十八チームが参加した中で、努力賞(第五位の成績)を獲得しました。

【いよいよ発表】本番の十日。私たちの出番は午後の五番目。二十ハチームの参加で、受付を終えた午前八時には、すでに十数チームが、ステージやロビー、前庭で練習をしており、私たちも午前中、引率の石渡指導主事の手配で、なんと昼間のスナックで練習。正午過ぎ、軽く食事をして会場の野口記念館へ向う。出番を待つ間、出演中のチームのハーモニーに聞き入